

# 第31回 日本動物児童文学賞審査委員会の会議概要

I 日 時 令和元年7月11日(木) 13:30～16:30

II 場 所 日本獣医師会会議室

## III 出席者

### 【委員】

動物福祉・愛護部会長

佐伯 潤 公益社団法人日本獣医師会理事(動物福祉・愛護部会長)

動物福祉・愛護関係省庁及び教育関係省庁関係者

長田 啓 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室室長

長尾 篤志 文部科学省初等中等教育局主任視学官

動物福祉・愛護関係学識経験者

安部 正弘 公益社団法人日本愛玩動物協会副会長

内山 晶 公益財団法人日本動物愛護協会常任理事

須田 沖夫 須田動物病院院長  
前一般社団法人家庭動物愛護協会会長

【日本獣医師会】 境 政人(副会長兼専務理事)

### 【欠席】

成島 悦雄 元井の頭自然文化園園長

公益社団法人日本動物園水族館協会専務理事

## IV 議 事

- 1 委員長の選任(協議)
- 2 第2次審査に至るまでの審査経過等(説明)
- 3 審査(協議)
- 4 審査基準について(協議)
- 5 その他

## V 会議概要

冒頭の挨拶として、境副会長兼専務理事から委員に対して、6月25日に行われた第76回通常総会で役員の変更があり、動物福祉・愛護部会長に佐伯理事が就任されたこと、自身も副会長兼任となったことが報告された。

また、先月に閉会した国会で動物愛護管理法の改正と、愛玩動物看護師法が成立したことについて本会の対応等が述べられた。

各委員に対し、15作品を精読して第2次審査に協力いただいたことへの感

謝が述べられた。

## 1 委員長の選任

事務局から委員長選任に係る関係規程等を説明後、委員の互選により、佐伯潤委員が委員長に選任された。委員長就任挨拶として、大阪府獣医師会の会長としては3期目となるが、日本獣医師会の部会委員会の委員長は初めてなので、委員各位のご協力をお願いしたい旨が述べられた。

## 2 第2次審査に至るまでの審査経過等（説明）

事務局から、資料に基づき、作品募集から、応募状況、第一次審査、第二次審査に至るまでの審査経過等について説明した。特に、平成31年1月1日から4月20日までの募集期間で、101作品の応募があり、第1次審査を作家の井上こみち氏に依頼し、第2次審査候補作品として15作品が選出された旨を報告した。

## 3 審査（協議）

各審査委員による審査候補作品の事前審査結果をもとに、協議の結果、別紙のとおり大賞1作品、優秀賞2作品、奨励賞5作品が選定された。

## 4 審査基準について（協議）

事務局から今回、審査基準（案）を協議することに至った背景と審査基準（案）について説明後、協議を行い、以下の意見があった。

- (1) 基準は要領に追加するのではなく、要領の補完として内規のような形で制定するのか。
- (2) これ位シンプルな内容であれば要領に追加して応募者に公開した方が良いのではないか。公開しないことで応募者の不利益にならないか。
- (3) 審査の基準を設けるなら要領と表現が一致していなければならない。
- (4) 文言を修正すべきである。
  - ア 2(1)の「～の扱い」を「～の観点」とする。
  - イ 2(3)の「～表現はないこと」を「表現がないこと」とする。
  - ウ 2(4)の「内容表現等～」を「内容・表現等～」とする。
- (5) 一次審査委員には二次審査の基準も知った上で審査して欲しい。
- (6) 文言は意見を踏まえて修正し、他に問題が無ければ内規として審査基準を制定する方向で進める。

## 5 その他

- (1) 別紙入賞者のうち、大賞、優秀賞受賞者の表彰は、令和元年9月22日（日）に台東区生涯学習センター ミレニアムホールにて開催される令和元年度動物愛護週間中央行事屋内行事の会場において行う。
- (2) 大賞及び優秀賞の3作品は、「第31回日本動物児童文学賞入賞作品集」として製本のうえ、都道府県等の関係機関、小学校等の教育機関及び図書館等に配布される。

【別紙】

## 第31回日本動物児童文学賞入賞作品

### 【日本動物児童文学大賞】

#### 「ヨットの家に住むきみ」

河野 いづみ(大阪府)

＜受賞理由＞

古い家の売却を通して、動物を飼うことのきっかけ、適正飼育、飼育者の高齢化問題、終生飼養等のメッセージを、テンポの良いストーリーに上手に取り込み、暖かく伝えている秀作である。ペットごと家売りたいという発想がユニークで面白く、ミステリー感もあり、物語に引き込まれて一気に読んでしまう。また、相手の立場に立って考えを巡らせれば、双方が満足できる解決策を見出すことが出来るということも示唆している。

### 【日本動物児童文学優秀賞】

#### 「満月の夜に」

尾崎 順子(兵庫県)

＜受賞理由＞

満月の夜になると山の獣達の声分かるようになる教師の真一と猟師の弥平の物語。社会が直面している野生動物の問題を、ファンタジー性豊かに表現し、難しさを感じさせずに物語へと引き込こんでいく。情景描写が優れており、野生動物を取り扱う視点も良い。最後は安易に結論付けをせずに動物との共生について子供達に考えさせているが、やや分かりにくいかな。

#### 「明日香が生まれた夏」

佐々木 晋(北海道)

＜受賞理由＞

狭い空間、短い期間で展開されるストーリーの中で、ひいおばあさんの死、子猫の誕生、母猫の死、妹の誕生と、生死が交差する物語へと読者を誘い込む。「生死」という重いテーマを取り扱っているが、心温まるファンタジーで、優しく命について考えさせている。生命の連環を想起させるラストも印象的。途中で張られている伏線もきちんと回収されており、力量ある作品である。ただし、公園で生活をするというのは如何か。展開にもう少し工夫が欲しかった。

### 【日本動物児童文学奨励賞】

#### 「図書館のL」

梅津 洋子(徳島県)

＜受賞理由＞

図書館の脇に捨てられた子猫を育てていくことを通して、子供の成長や家族のまとまりを生き生きと描いている。主人公のマミちゃんの友人に対するヤキモチや、おばあちゃんの優しさが物語の幅を広げている。諸事情で動物を飼えない家庭でも、ペットを飼っている友人や親戚と一緒に世話をすることで、動物と関わる機会を持つことを紹介

している。アニメ・歌詞等の著作権に関わる表現がなければもっと良かった。

### 「かわぐつ先生」

感王寺 美智子(福岡県)

#### <受賞理由>

戦争体験により、一生をかけて人も動物もひとつでも多くの命を救っていきたいという、獣医師のかわぐつ先生の思いが伝わり、人としての誠実な生き方をさりげなく語っているところに共感を覚える。情景描写がやや分かりにくいところがあるが、こなれた文章で読みやすく、感動的なストーリーである。

### 「牛の命」

芝田 賢一(北海道)

#### <受賞理由>

北海道の牧場での体験を通して、主人公の少年が命の連鎖について実感を持って学び、成長していく様子を優しいまなざしで見つめている。動物児童文学として題材が素晴らしい。現在の酪農家の実態(大規模化・機械化・人手の確保)や、牛の習性、搾乳の仕方、酪農家を支える獣医師の役割などが良く描かれている分、誤字や子牛の死因に矛盾があること等が残念であった。

### 「鳩に似た父さん」

中野 幸隆(東京都)

#### <受賞理由>

戦後間もない暮らしの中で、新聞配達で稼いだお金で小学生が鳩を飼う物語は、今も昔も変わらない、動物を飼うことの喜びや、それに付随する飼い主の責任等を押しつけることなく伝えている。ドバトの能力・歴史、時代背景などが良く描かれており、読者を引き込む力がある。ただし、時代背景にある労働組合問題は児童文学としては少し難しいので、親子で読んで欲しい作品である。

### 「ミュウが教えてくれたこと」

吉田 万里子(大阪府)

#### <受賞理由>

学校飼育動物のウサギを亡くしたことから始まり、助かった子猫の命もあれば、亡くなっていく祖母の命もあり、繋がれていく命について学んでいく中で、成長していく主人公の少年の姿に希望が持てる。要所要所で見られる母親の指示が若干説教くささもあるが、的確な指示を出す役割を与えることで、上手くまとめられている。飼い主の責任、獣医師、動物保護施設、ボランティア獣医師の役割等、様々な問題についても伝えている。